

O's news



2018年8月1日発行

てんかん専門外来の御紹介

脳神経外科専門医 てんかん専門医 田村 健太郎

てんかんは人口100人あたり1人がかかる。ありふれた病気です。子どもの病気と思われがちですが、どの年齢の方にも発症し、最近のデータでは高齢者の患者さんのほうが多いということがわかっています。てんかんは、大脳の神経細胞が制御を失い、激しい電氣的興奮が起ることによっていろいろな発作症状を起こしてしまう病気で、さまざまな原因で発症します。高齢者に多いのは、脳の老化(動脈硬化)や、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍など脳の病気が高齢になると増えてくるからです。脳の一部分に傷がつき、それが神経細胞を電氣的に刺激、興奮させててんかん発作を起こします。それら脳の病気のあとにてんかん発作が起こるようになった場合は、原因がはっきりしていますが、てんかん患者さんの中にははっきりした原因が脳のMRIなどの検査をしても見つからない場合も多いです。神経細胞の電氣的な興奮性が高いなどの体質が原因であったり、胎児期に脳ができあがってくる最中の未熟な神経細胞が大人になっても残っていたり(限局性皮質形成異常など)するなど、大脳の神経細胞を興奮させてしまうなんらかの異常があればてんかん発作を起こしてしまうため、てんかんの原因は本当に多岐にわたります。また、てんかん発作は突然起こり、多くの場合数分以内で終わります。医師の前で発作が起こることはめったになく、治療する医師は、その発作がどのような発作だったのか、患者さん自身やご家族などの目撃者に根掘り葉掘り質問する必要があり、発作に関わる豊富な知識が必要です。てんかんと言えば、全身がけいれんして口から泡をふく、という症状を想像される方も多いと思いますが、てんかんの発作は大脳の神経細胞の電氣的興奮で生じるため、確かに運動神経が電氣的に興奮するとけいれんが

起こりますが、その他の、たとえば記憶をためておくところ(海馬)の発作がおれば、記憶がすこんと抜けて落ちてしまったり(純粋健忘)、ものを見るところ(後頭葉)の発作がおれば、視野の一部がきらきら光ったりします。自律神経を調節している部分の発作がおれば、強い吐き気があったり、ものすごい恐怖感を感じることもあります。これらは、患者さん自身がてんかんの発作であると自覚していることは少なく、逆流性食道炎と思われていたり、パニック障害と言われ精神科に行きなさいと言われてたりすることもあります。



このように、てんかんには様々な原因があると同時に、様々な症状があるために、患者さん1人1人の病状は本当に千差万別で、1人1人に合わせた治療が必要です。「あなたはてんかんですね、じゃあこの薬を飲めばもう安心です」というふうに簡単に治療できる場合はそれほど多くありません。

そもそも、てんかんはなぜ治療する必要があるのでしょうか。意識がなくなり倒れてしまう発作は、怪我を予防したり、自動車運転中に発作が起こらないようにする必要はだれもがわかります。また、発作があることで職を失ったり、結婚ができなかったりという社会的なデメリットも取り除かないといけません。しかし治療の目的はそれだけにとどまりません。てんかん発作が繰り返し起こることによって、大脳の神経細胞に対するダメージが蓄積して、知能指数が下がったり、記憶力が低下することが知られています。とくに成長段階にある小児の患者さんではこの悪影響は非常に大きく、できるだけ早い段階でてんかん発作を抑えて、脳へのダメージを最小限にする必要があります。



場合によってはてんかんの外科治療を急いで行わないといけないこともあります。一番大切な治療の目的は、大脳の機能を守ることです。

今てんかんの外科治療という言葉を使いましたが、てんかん治療の基本は抗てんかん薬による薬物治療です。適切な診断と、適切に薬を選ぶことで、だいたい70%程度の患者さんが、2種類までの抗てんかん薬で発作がゼロになります。逆に、残りの30%の患者さんは、3種類、4種類とお薬を増やしていてもなかなかゼロにすることは難しく、薬剤抵抗性てんかんと呼ばれ、外科治療の対象となります。外科治療には、発作ゼロが期待できる根治手術と、発作の抑制（頻度や程度を減らす）を目的とした緩和手術の二種類があり、それぞれの患者さんに適切な外科治療を選択する必要があり、専門の施設で詳細な検査を行った上でどのような方法が適切なのか判断します。とくに側頭葉にてんかんの原因がある内側側頭葉てんかんの手術による発作消失率は非常に高く、90%以上の患者さんが発作ゼロになりますが、それ以外のてんかんに対する根治手術の発作消失率はだいたい60%程度で、残念ながらすべての患者さんが手術で発作ゼロになる訳ではありません。それでも発作がゼロになるメリットは非常に大きく、薬剤抵抗性てんかんの患者さんには、積極的に外科治療ができるかどうかの検査をお勧めしています。一方、最近日本でも行えるようになった緩和手術に、迷走神経刺激療法があります。ペースメーカーのような機器を体に植え込み、持続的に迷走神経（頸部にあります）に電気刺激を与えることで、発作が軽減するという治療です。発作がゼロになる患者さんは約10%ですが、発作が半分以下になる患者さんの割合が60-70%程度あり、発作の強さも軽減させることができます。頭を開ける必要がなく、手術自体も2時間以内に終わる比較的体に負担のかからない治療で、これまでのお薬でも発作がよくならなかった患者さんに対する治療法として広く行われるようになっていきます。

最近の数年で、多くの新しい抗てんかん薬が発売されています。従来からあるお薬は眠気や、肝臓に負担をか

けたりといった副作用が多かったのですが、最近のお薬はそれらの副作用が軽減されて、患者さんにとって体への負担が少ないものが多くなっています。加えてこれまでのお薬とは全く異なる仕組みで発作を抑えるものもあり、新しいお薬を試すと発作がよくなった患者さんも多く経験します。ただ、発売されてからまだ日が浅いお薬は値段が高く、またてんかん患者さんは、発作を抑えるためにずっと飲み続けないといけなことが多いため、経済的な負担が馬鹿になりません。てんかんは、幸い公的支援の対象となっており〔自立支援医療、精神障害者手帳（誤解のないようにしてほしいのですが、てんかんは精神疾患ではありません。日本の障害者手帳には身体と精神の2種類しかなく、てんかんは脳の病気なので、精神に分類されているだけです）、障害年金など〕、当院でも対応可能ですのでまだ申請ができていない患者さんは是非お願いします。

平成30年6月から、てんかん専門医である田村が当院のてんかん専門外来を担当しています。普段は奈良県立医科大学附属病院と国立病院機構奈良医療センターてんかんセンターで、てんかん専門外来とてんかん外科治療を行っています（年に30人以上の外科治療を行っています）。兵庫県には成人の治療を行うてんかん専門医が少なく（日本てんかん学会のホームページによれば15人のてんかん専門医のうち13人が小児科、1人が精神科、1人が脳神経外科）、またてんかん外科治療を行える病院がまだありません。兵庫県の人口は約550万人で、その1%、5万5千人のてんかん患者さんがおられる計算になり、とても15人のてんかん専門医ですべての患者さんをカバーできるものではありません。先ほど述べたように、てんかんの診療は一筋縄でいか

いかず困っている患者さんが多くおら

れるかもしれません。月1回しか来

られませんが、少しでも兵庫県の

てんかん患者さんの治療のお

手伝いできればと思って

おります。どうかよろし

くお願いいたします。





日本の四季暦

「二十四節気と七十二候」のお話

ガーデンQoo
秋吉 美穂子

はづき
葉月 夏まっ盛り。青空に入道雲、せみの声も響き、夏の陽差しが照りつけますが、お盆を過ぎると少しずつ秋の気配が感じられるようになります。



十二節気
大暑
たいしゅう

8/2~6(第三十六候) **大雨時行** / たいうときどきふる

入道雲がモクモクと湧き、突然の土砂降りの雨-夕立の多い頃です。東北三大祭り、青森各地で「ねぶた祭」が開催されます。武者を描いた巨大灯籠を曳航し、ハネトたちがラッセラー、ラッセラー♪と跳ね回ります。



十三節気
立秋
りっしゅう

8/7~11(第三十七候) **涼風至** / すずかぜいたる

暑い日が続きますが、朝夕の風の中に、秋の気配を感じます。真夏に旬を迎える桃、8月10日は「白桃(ハフトウ)の日」なのだとか♪瑞々しいやさしい甘さは美味しいですね。冷えすぎると甘みが半減するので、食べる一時間程前に冷蔵庫へ。



「暑中見舞い」が「残暑見舞い」に変わってゆきますね。
朝晩の風に秋の気配。

8/12~16(第三十八候) **寒蟬鳴** / ひぐらしなく

「カナカナ」寒蟬の音が夏の終わりを感じる頃です。最近「栗南瓜」など甘くおいしい品種も出回る「南瓜」、戦国時代にポルトガル人が「カンプジア方面からとれた瓜」として紹介されそれが転じて「カボチャ」となったそうです。♪なるほど!



8/17~22(第三十九候) **蒙霧升降** / ふかききりまとう

朝夕の気温が下がり、水辺では白く霧が立ちこめる様子がみられます。負飛蝗(おんぶばった)、大きなバッタの上に小さなバッタが張り付いている姿を見かけますね。下がメス、上がオスで「オンブバッタ」とはあだ名のようにですが学術名です。



十二節気
処暑
しよしよ

8/23~27(第四十候) **綿柎開** / わたのはなしべひらく

花が咲いた後一ヶ月程で実がなり、はじけ飛んで中から綿花(コットンボール)が♪綿花を紡ぎ木綿に、採取した後の種子は綿実油として食用に利用されます。



暑さも少しずつ和らぎます。
夏の疲れがやすい時期です。

8/28~9/1(四十一候) **天地始肅** / てんちはじめてさむし

ようやく暑さがやわらぎます。「肅」には静まる、収まるの意味があり「天地が夏から冬へ向けてあらたまる」という時期です。雑節の一つ「二百十日」、天気荒れやすいこの頃、富山「おわら風の盆」、奈良「風鎮祭」など、風を鎮める為の祭りが行なわれます。



今月の鳥 セキレイ



屋上庭園の花壇の一つに「四季成り苺」が植えられています。

この苺、スクスクと大株に育ち、この春はたくさんの苺がなりました。

その「苺の森」の中に、7月初旬4つのかわいらしい卵が並ぶ巣を発見♪親鳥が卵を抱く数日後、三羽のヒナが生まれていました。「チチッ チチッ」と私達の姿に警戒しながら何度もえさを運ぶ健気な親鳥に見守られ、あの豪雨を乗り越え(てみを屋根替りに立てかけました^_^)、先日元気に巣立ってゆきました♪



入職医師の紹介

松岡 龍太
(まつおか りゅうた)

2018年7月から大西脳神経外科病院へ赴任させていただくこととなりました。大西脳神経外科病院は手術数・症例数が多いだけでなく、医療の質も非常に高いことに驚いております。すこしでも貢献できるように頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。



Ohnishi Neurological Center

外来担当医表

		月	火	水	木	金
1診	午前	大西	大西(宏)	久我	西岡	兒玉
	午後	—	大西(宏)	久我	西岡	兒玉
2診	午前	高橋	前岡	角田	—	第4金曜日
	午後	高橋	前岡	角田	—	てんかん外来 田村
3診	午前	担当医	担当医	担当医	富士井	担当医
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
5診	午前	担当医	担当医	担当医	小坂	松岡
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	—
6診	午前	脳血管内治療外来 高橋	—	脳血管内治療外来 大西(宏)/高橋	—	脳血管内治療外来 大西(宏)
	午後	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本
7診	午前	神経内科 立花	—	神経内科 赤谷	内科 竈門(カマド)	—
	午後	—	—	—	内科 竈門(カマド)	<13:00~> 麻酔科 鈴木

※診察受付時間:月~金 <午前>8:30~11:30 <午後>13:30~16:30 (H30.8)

連携協力医療機関のご紹介(No.156)

西村医院

院長:西村 宏明

【認定資格】医学博士

【診療科目】内科・放射線科・胃腸科

【住 所】兵庫県神戸市西区枝吉1-77-6

【電 話】078-929-0250

西村院長からのメッセージ

いつも貴院にはお世話になっております。当地で開業して39年になります。そろそろ世代交代も考え、娘(呼吸器内科)に任せたいと思っております。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前(9:00~12:00)	○	○	○	/	○	○	/
午後(17:00~19:00)	○	○	○	/	○	/	/



連携協力医療機関のご紹介(No.157)

田村眼科

院長:田村 広徳

【認定資格】日本眼科学会認定 眼科専門医・先進医療認定施設

【診療科目】眼科

【住 所】兵庫県明石市大明石町1-7-33大手ビル1F

【電 話】078-913-1010

予約専用ダイヤル 050-5533-1033

田村院長からのメッセージ

脳内の視路に問題がないか、よく病診連携させて頂いております。迅速な受入れ体制が整えられており大変助かっています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前(8:30~11:30)	○	○	○	○	○	交代制	/
午後(14:30~17:30)	手術	○	手術	/	○	/	/

※火曜午後、土曜午前を除き、2診体制での診察を行っております。
※当院都合により、診療体制が変更される事もございます。
あらかじめご了承ください。



〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島1661-1

TEL:078-938-1238/FAX:078-938-1236 mail info@onc.akashi.hyogo.jp <http://www.onc.akashi.hyogo.jp/>

地域医療連携室 TEL:078-938-1288/FAX:078-938-0399

発行責任者:院長 大西 英之 編集責任者:事務次長 瀧原 健司

